

障がい者ピアサポート研修事業に参加して 理事 兼 港育成園 管理者 藤原 勇治

令和3年度の障がい福祉サービス等の報酬改定により、精神障がいにも対応した地域包括ケアシステムの推進の内容の一つとして、「ピアサポートの専門性の評価」が加えられました。

ピアサポートとは、一般に同じ課題や環境を体験することがその体験からくる感情を共有することで、専門職による支援では得難い安心感や自己肯定感を得られることを言い、身体障がい者自立生活運動で始まり、知的障がいや精神障がいの分野でも定着し始めている支援方法です。

「ピア」とは、「仲間、同輩、対等者」という意味で、ここでは、障がいという同じ背景を持つ者どうしととらえることができます。

この報酬改定を受け、大阪市でも、大阪市障がい者ピアサポート研修を実施することになりました。

この研修の目的は、自ら障がいや疾病の経験を持ち、その経験を活かしながら、他の障がいや疾病のある障がい者の支援を行うピアサポーター及びピアサポーターの活用方法を理解した障害福祉サービス事業所の管理者等の養成を図ることにより、障がい福祉サービス等における質の高いピアサポート活動の取り組みを支援することとなっています。

同じ事業所で勤務する管理者等とピアサポーターの両方が、この研修を修了することにより、障がい福祉サービス事業所が報酬の加算を請求できるようになります。

私は、研修事務局より、知的障がいの支援の領域から、協力を求めたいということでご縁をいただき、企画段階から、準備に関わらせていただきました。

基本的には国が定めたカリキュラムの内容を踏まえる必要があるのですが、それほど自由に裁量があるわけではないのですが、大阪市の研修では、すべての障がい種別の当事者が直接自分の障がいについて語りました。

知的の領域からは、前きずな会会長の中元政孝さんが、メープルの岩井職員のサポートを受け、ご自身のこれまでの経験や、現在の仕事や暮らし、きずな会の活動についてなどを話してくれました。

中元さん以外の当事者の方は、精神障がい、身体障がい・難病・高次脳機能障がいの方で、ご自身の障がいや人生などを言葉にして表現することはそれほど難しいことではありませんが、中元さんの場合には、

研修の意図や、中元さんに話してもらいたい内容などを岩井さんに分かりやすく伝えていただいた上で、相談しながら台本やパワーポイントの資料の作成のサポートが必要でした。

そもそも、知的障がいの方の多くは、自分の考えや意見をまとめたり、他者へ伝える機会があまりなく、このことに経験や支援が必要であると感じました。

さらに、現状として、知的障がいの方の場合、障がい特性や、経験の不足等もあり、大阪市では障がい福祉サービス事業所に支援職員として雇用されている人が極めてまれで、今回の研修でも、知的障がいのピアサポーターの受講はありませんでした。

研修後のスタッフのミーティングで、他の障がい当事者の方からこの課題について問われて、私自身も課題として持ち帰るとお伝えしました。

研修の準備期間から終了まで、知的障がいの方が、今後どのようにピアサポーターとして活躍することができるのか、私は今もまだ考え続けています。

ヒントとして、過去に私自身が勤務したことのある、通勤寮の中で、ご利用者がお互いに、自分たちの仕事や目指す自立について、日々の共同生活の中で、切磋琢磨しながら、お互いに励ましあっていたあの姿が思い浮かびます。

知的障がいがあっても、何もできないということではない、適切なサポートが受けられれば、自己選択や自己決定は十分可能であること、その存在が他者の参考や目標になりうることは十分見てきました。

ただ、その力や可能性をこの制度や研修の中でどう生かすことができるのか？障害福祉サービス事業所で働く、ピアサポーターとして雇用される知的障がい者が今後増えていき、活躍できるようになるために何が必要なのか、情報を集め、全国での先進的な実践事例からも学びながら、何らかの答えを見つけられるように、私自身の仕事を見直してみたいと思います。

